

平成 28 年度 第 2 回 SPring-8 ユーザー協同体評議員会 議事録

日時：平成 28 年 8 月 29 日（月）12 時 00 分-12 時 45 分

場所：関西学院大学 神戸三田キャンパス VII 号館 1 階 111 教室

出席者：中川敦史(会長)、今泉公夫、岡本亨、片山芳則、金谷利治、小原真司、高原淳、巽修平、足立伸一、雨宮慶幸、岡島敏浩、尾嶋正治、河瀬和雅、坂田修身、瀬戸秀紀、堂前和彦、水木純一郎、宮崎司、村上洋一、吉木昌彦

幹事/ 高尾正敏(副会長)、杉本宏、上原康、若林裕助、加藤健一、木村昭夫、田中義人、西堀英治

オブザーバー/星野聡、石田浩康、山川晃、鈴木昌世、櫻井吉晴、木下豊彦

事務局/ 坂川琢磨

1. 会長挨拶

議事に先立ち、中川会長より挨拶があった。

2. 前回議事録の承認

杉本幹事より 4 月 11 日に、SPring-8 で行われた平成 28 年度第 1 回評議員会の議事録(案)について示され、承認された。

3. 行事幹事報告(木村幹事)

- ・配布資料に基づき、今回の SPring-8 シンポジウム 2016 の開催概要の説明があった。
- ・次回は広島大学にて開催予定(現時点では、会場・時期詳細は未定)の旨、報告があった。

4. 会計幹事報告(加藤幹事)

- ・平成 28 年 8 月 22 日付けの予算執行状況について報告があった。予定どおり順調に執行中である旨、報告された。

5. 利用幹事報告(坂田幹事)

- ・配付資料に基づき、平成 28 年度の各研究会によるワークショップ等の開催状況について報告があった。14 件のうち、9 件は当 SPring-8 シンポジウムのサテライトワークショップとして開催されている旨、報告された。
- ・H28 年度利用者動向の調査について、研究会の活動報告として年度末に取り纏めて JASRI へ提出し、「会員限定で」公開する方針となった旨、報告された。
- ・旅費申請のガイドラインについて、配付資料に基づき、連絡事項の説明があった。また、SPring-8 シンポジウムのサテライト研究会開催において、シンポジウム参加者の宿泊費の補助の可否についての判断を、執行部および利用委員会に一任いただくこと、了承された。

5. 分野融合型研究グループ活動報告(杉本幹事)

- ・配付資料に基づき、ナノデバイス科学、原子分子生命科学、分子機能性材料、実用の4グループについての進捗状況について報告された。ナノデバイス、実用については順調に進んでおり、SPring-8 シンポジウム 2016 でも高尾プログラムオフィサー、大野プログラムオフィサー(当日は壬生教授)による発表がある旨、説明があった。また、原子分子生命科学については、城教授(兵庫県立大学)に代表者が決まり、内容はこれから詰めていく段階であり、分子機能性材料については、新しいグループ体制と支援方法を検討中である旨、報告があった。

6. 今後の活動計画について (杉本幹事)

- ・配付資料に基づき、2016年度の今後の活動計画について報告があった。
- ・SPRUC 会員の各研究会への登録促進のポスターを作成し、各 BL に掲載を依頼した旨、報告があった。
- ・配付資料に基づき、当日の総会での承認依頼事項(代表機関の追加(量子科学技術研究開発機構および、東北大学)およびこれに伴う会則の修正案)についての確認があった。
- ・次期評議員選挙についてのスケジュールについて説明があった。
- ・次回評議員会と SPRUC 特別総会が、第 30 回日本放射光学会年会・放射光学会合同シンポジウム内の日程で行われる旨、説明があった。

7. その他

- ・(評議員) 分野融合型研究グループ活動報告で、分子機能性材料については前々回の委員会から進捗がないように見える。検討の様子はどうか。(幹事)年度内に新体制をつくる予定で、プログラムオフィサーの検討を進めている。(中川会長)分野的は引き続き分子機能性材料を維持し、決して中途半端にならないように進めている。(評議員) 進捗がみとめられる他グループの活動をみても、分野融合研究グループの活動を進めるためには、プログラムオフィサーだけでなく、実際に舞台回しができる人物が大変重要な役割を果たしていると思われる。(幹事) プログラムオフィサーは、放射光関係者に限定していない。そのため、放射光分野に近い担当者がサポートする体制をとっている。(評議員) 原子分子生命科学分野はどうか。(幹事) つい先日代表者が決定された段階で、具体的な体制はこれからといった状況である。
- ・(評議員) 代表機関登録すべき機関は、震災が理由で登録保留になっていた東北大学以外にはないのか。(杉本幹事) ユーザー規模を考慮すると、大阪府大、産総研も候補となる。当初は、ユーザーの規模だけではなく、コアとなる人物がいるかというのも判断材料になっていた。(評議員) 現在では、ユーザーの規模も考慮して、代表機関になってもらえる機関を検討していくべきである。(中川会長) 皆さんの意見を基に検討する。

配付資料：

資料 1. 平成 28 年度第 1 回評議員会議事録(案)

資料 2. SPring-8 シンポジウム 2016 および次回開催案

 SPRUC 2016 Young Science Award 選考委員会報告

資料 3. 会計幹事報告

資料 4. 利用委員会報告

資料 5. 分野融合型研究グループ活動進捗

資料 6. 2016 年度 今後の活動計画

資料 7. 次期評議員選挙 次回の評議員会について